

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400187		
法人名	社会福祉法人やまゆり		
事業所名	グループホーム せせらぎの家		
所在地	島根県出雲市佐田町一窪田118		
自己評価作成日	平成 22年 1月 14日	評価結果市町村受理日	平成 22年 3月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計
所在地	島根県出雲市荻杼町274-2
訪問調査日	平成 22年 1月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に立地していることで、四季折々の表情を身近に感じ取りることが出来ます。入居者さまの思いを第一に考え調理や掃除など長い人生の中で得意とされていたこと、好きで行っていたことを役割として行うことで残存機能の活用、自信の回復につながることで、毎日の生活を楽しいものとなるように支援している。近隣の住民の皆様とは、とんど祭りや子供会など地域の行事へ積極的に参加している。また逆に夏の納涼祭、ラジオ体操、毎月体操教室を開催し近隣の住民の皆様に来ていただく機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前法人時代から、地域福祉の核を担い、地域と共に歩んできた経緯があり、“住民との深い関わり”を引き継いで、地元の子供からお年寄りまで幅広い交流を育んでいる。地域ボランティアや避難訓練における地域住民の協力が惜まず行われており、大雪で停電になった時には、地元の消防団の方が自主的に暖房器具を持って駆け付け、協力して下さったと伺い、改めて、地域に温かく見守られ、気にかけて頂いているホームであると認識させられた。隣接する障害者自立支援施設の入居者の協力も得ており、共に地域の住民として受け入れられていると感じた。又、高齢でありながら、元気に過ごされている利用者の姿からは、長年、地域で尽力されてきた介護予防の成果を垣間見る思いであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 地域の中で安心して住める居場所となるように！！と年度始めに全スタッフで話し合い決めている。ミーティングを通して共有を図っている。	毎年、年度初めには、全職員で理念の見直しを行い、その年の目標を定めている。今年度は「笑顔」を目標に掲げ、利用者、家族、地域の方、職員の笑顔がたくさん見れるような取り組みに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 平成 22年 1月 14日	毎月グループホームで体操教室を開催し近隣の方と会える機会を作っている。	馴染みの関係を構築する為、年二回、発行する広報誌は、管理者が全戸に配っている。毎月恒例となっているホーム主催の体操教室の案内は職員と利用者が一緒に配り、近隣の方にも参加頂いている。事業所の納涼祭が近くなると、地域の方が自主的に草取りに来て下さり、当日には大勢の家族連れが参加されている。自治会のとんど祭りや夏休みのラジオ体操、近隣宅で野菜を頂いたり、一緒にお茶を飲んだり、日常的にあらゆる世代と交流を図っており、地域の方に温かく見守られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流の場の提供、訓練指導員による体操指導を毎月行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では報告だけでなく、避難訓練や体操、食事会など実際に体験しホームの雰囲気を感じれるようにしている。会議の内容はミーティング時に確認しサービスにいかしている。	会議を利用して、出席者の方にも、避難訓練、食事会、体操教室にも参加頂き、ホームの雰囲気や利用者の様子を見て頂くなど、理解を深める工夫がされている。水害の経験や昨年の大雪で停電した事などから、マニュアルの見直しを行い、災害対策には特に熱心に検討を重ねられている。	会議の報告は、職員だけでなく、全ての利用者家族にも、話し合った内容が確実に伝わるような方法を検討して頂きたい。又、一般職員も交代で参加出来る体制作りをお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 平成 22年 1月 27日	入退去のときなどは、本所だけでなく佐田支所にも報告を行っている。	市のグループホーム協議会や地域の連絡会、研修会等に参加している。入退去の際は、地元支所にも報告し、担当者と相談出来る機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、また ホーム内研修で全スタッフが理解できるようにしている。	法人全体をはじめ、事業所内でも学ぶ機会を持っている。日中は居室や玄関に鍵を掛けず、利用者の自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、また ホーム内研修で全スタッフが理解できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士を有しているスタッフを中心にホーム内で研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接などで話せる時間を確保している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族交流会などで意見を聞けるようにしている。	年に一度、家族交流会が行われ、家族、利用者、職員が、楽しく過ごす中で理解を深めながら、意見を引き出す工夫をしている。家族へは毎月、利用者の様子を知らせる「おたより」を、又、年二回は、「広報誌」を発刊し、家族と自治会へ全戸配布して、理解を深めている。	新任職員や退職については、おたよりで家族へも報告されていますが、異動もあり、職員の顔と名前をわかりやすくホーム内に掲示されてはいいかでしょう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから話せる関係作りをしている。年2回人事考課の面接のときに運営についても意見を求めている。	毎月の目標を決め、職員の良いところを見つけ、お互いに褒めあい、日常から、職員が意見を言いやすい関係を築いている。又、全職員が半年ごとに、自己評価を提出し、施設課長と面談を行っている。近隣の事業所との交流など相互に成長し合える関係づくりなどもあり、職員の能力向上と情報の共有化に努めている。	多数の職員交代は大変残念です。GHの特性を理解し、法人内他施設との異動は無いように配慮をお願いしたい。事業所としての年度計画や折角の業務の見直しが中断する等の支障も見受けられます。又、管理者が夜勤に入ること、日中不在が多い事は、職員や利用者、家族の不安にもつながります。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課などで意見を言える機会はあるが、収支の面で厳しいものがあるため、管理者の夜勤はいまだに変わらない現実もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の実践者研修への参加。他施設への交換実習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ミニグループホーム連絡会を作り勉強会や交換実習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはスタッフの勤務体制を厚くし、出来るだけゆっくりに対応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、必ず自宅へ訪問し話を聞くようにしている。家族様がリラックスして話せる環境で面接するように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時には、地域の資源を紹介し出来るだけ自宅で生活できる方法を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの役割を通し、生活意欲を持っていただき、毎日と一緒に過ごすことで多くのことで共感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面接の時には、自宅での生活、人柄など話の中で伺い一緒に支えていく関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所で行事があるときには、出来るだけ参加するようにしている。	空き家になっている自宅の庭に果実を採りに出掛けたり、馴染みの場所や店へ出掛けています。手紙や電話などでも馴染みの関係が継続するように支援している。又ボランティアの方も長期に及ぶ方が多く、馴染みの関係を築いている。併設する障害者自立支援施設の入居者とは温かく見守り合える関係が出来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフでは出来ない関わりが、利用者同士にはあることを認識し良好な関係が築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族が不利益にならないように、電話や面会などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを訴えやすいように、傾聴を意識し支援している。また 思いを出しにくい方に対しては、本人本位になるように検討し支援している。	本人の意思をゆっくりと確認し、様々な場面で、利用者の意思を表出できる機会を作っている。職員にとって、入浴時間や、就寝前のリラククス時間は、利用者の想いが引き出せる有意義な時間となっている。さりげない対応に、利用者の思いを尊重している様子が伺える。職員の気づきは、忘れないように、すぐに記録し、皆で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、友人の面会時に生活暦や生活のこだわりなどを会話の中で把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録などを通し、毎日の状態を把握するようにしている。ミーティングなどでスタッフ全員で検討する機会を作っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会などを利用し、暫定のプランを提示し一緒に作るようにしている。	居室担当者を中心に、モニタリングシートを使い、定期的にケアカンファレンスも行っている。家族の面会も多いので、面会時を利用してケアプランを提示し、意見を伺っている。3ヶ月に1回は、本人や家族の意向、職員の気づきや最新情報を集め、現状に合ったプランに見直している。又、支援内容が変わった時は、随時、担当者会議を開き、見直しを行っている。	職員間で情報の共有はされていますが、職員で話し合った会議や研修記録、ヒヤリハット、事故報告書などには、全職員が必ず確認のサインを残すようにするとよいでしょう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの生活の状況を十分に把握できるように話し合いの機会を作り情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診などは柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵手紙などのボランティアに来ていただくことはあるが、地域の教室などへの参加はまだ出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居前のかかりつけ医を継続している。	地元の利用者が多く、入居前のかかりつけ医に往診をお願いされる方が多い。但し、夜間、休日は町内に医師が不在となることから、在宅診療所の医師とも連携を密にし、いつでも来て頂ける体制であり、利用者、家族、職員の安心に繋がっている。	事故やヒヤリハットは、検討した記録まで残されていますが、家族への報告の様子(家族の反応も含め)も記録しておかれる事をお薦めします。利用者にケガが無かった場合でも、家族に報告し、現状(本人の状態やリスク)をその都度、知っておいてもらった方が良いでしょう。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろから気楽に相談できる関係を作っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフ全員が定期的に面会に行くようにしている。相談員とも良好な関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアに向けては必ず家族、主治医と一緒に話し合い方針を決定している。覚書を作成し対応するようにしている。	入所の際、事業所で出来る事、出来ない事を家族に伝え、了解を得ている。契約時に、法人施設への入居申し込みをされる方が多いが、その都度、家族とも話し合い、納得された上で対処している。条件が整えば事業所での看取りも考えられており、終末期の覚書も作成されている。	職員一人一人の考えやホームの体制を考慮し、話し合いを重ねる度に、全員で方針を共有していく必要があるでしょう。入院された時には、職員が定期的に面会され、病院への引き継ぎ、継続的な利用者、家族への支援がなされており、十分に看取りの支援がされていると考えます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習会を開催し緊急時の対応訓練をしている。また、たびたび運営推進会議の中でも議題としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と一緒に避難訓練や防災訓練を行っている。大雨のときは、夜勤者を増やすなどの体制を作っている。停電時用に発電機を設置している。	過去の水害を受け、地域をあげて防災訓練が行われており、火災だけでなく、大雨、河川増水による避難訓練も行っている。事業所での救急法講習会には、地元自治会の方や利用者も参加され、一緒に学習された。水害の教訓から、大雨の日は夜勤者を増やしたり、停電の経験から発電機を設置し、使用訓練するなど、前向きに検討し、改善に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の戸の開閉、中の様子が丸見えとならない様にしている。個々の気持ちとなり話を伺い声かけをしている。ミーティングを通して徹底している。	個人情報の利用目的や取り扱い、家族に説明した上で、書面で同意を得ている。会議や勉強会で職員の意識を統一し、利用者一人ひとりにあった言葉かけや対応がなされている。プライバシーに配慮した入室や排泄支援についても、ケアが統一され、入浴は同性介助にするなど配慮し、利用者の尊厳が守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時の衣類の選択 希望があった時には可能な限り対応している。 思いを言いやすい場面をそれぞれ把握した上で希望の表出が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務の状況によっては了承を得た上でずらさせていただくことはあるが、入居者様のペースを大切にしている。出来ることに対して見守りを中心に待つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の髪の毛のセットのこえ掛け。使い慣れた化粧品を使用していただいている。衣類の汚れがないように配慮しボタンが無いことがないようにも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には調理、片付けの参加をしていただいている。何が食べたいのか聞きながら調理をしている。	調理専属職員を中心に、利用者と職員が一緒に献立、調理、片付けまで行っている。献立は法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。朝、夕は隣接する障害者自立支援施設の入居者と一緒に食事をし、双方に良い関係が継続されている。職員は、利用者と一緒に食卓を囲み、弁当や利用者で作った副食、手作りオヤツを味わうことで、話題も広がり、和やかに食事をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	あらゆる食材を準備し栄養面は考えるがカロリー計算は行っていない。水分はチェックシートを使用し摂取量を常に把握している。嗜好にあったものを準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様にに応じて口腔ケアを行っている。週2回は入れ歯洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートの活用。日中の紙パンツをやめ出来るだけ布のパンツに変更している。下拭き、前側の下着やズボン上げるなど出来ることは行っていた。	居室のトイレを使われる方が殆どで、日中、出来るだけ布パンツで過ごされるように、タイミングを見計らい誘導するなど、自立に向けた個別の支援が行われている。リハビリ体操の時間を設けたり、食事の盛り付けやゴミ出し、洗濯物たたみ等、出来るだけ体を動かして頂く事で便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用は個々にあるが、乳製品や繊維質の多い食品の使用も心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調をみながらこちらの声かけで入っただけ。夜間入浴は行っていないが出来るだけ夕食前に入れるなどの工夫を行っている。	過去の外部評価を受け、入浴方法の見直しを行い、利用者の希望に応じた時間での入浴に努めていたが、利用者の体調不良や異動による職員体制により、希望に沿った支援が叶わない状況である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しなければ、本人の意思を尊重し支援している。畳の部屋など過ごしやすいく所も選択してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイル、緊急持ち出しファイルにて現在の服薬状況が分かるようにしている。内容の変更時には連絡ノートに記載し全員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや能力に応じた役割がある。今年度はインフルエンザのため気分転換の外出は出来なかった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人ごみの多いところにはなかなか出かけることが出来なかったが、自宅や神社などへは出かけられるように支援した。自宅へ帰るときなどには家族様の支援も得られた。	普段は、隔日で近くのスーパーに、利用者と一緒に食材や生活用品の買い出しに出かけている。ドライブを兼ねた外食や自宅、神社など馴染みの場所へ個別の外出支援も行われている。帰宅願望のある利用者は、日に何回も近所を歩かれるが、職員や他の利用者、併設施設の入居者はじめ近隣の方々の温かな見守りで自由に外へ出掛けられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の管理が出来る方には、家族様の了承を得た上で自己管理をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には、電話対応をしている。年賀状のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓に心がけている。室温や明るさなどは法人内で定期的に巡回しチェックをしてもらっている。	台所の作業台は低めに設計されており、利用者が使いやすく、キッチンとフロアが一体化している。明るい日差しの中、懐かしさを感じさせる小物、季節の花や絵も飾られており、居心地良い空間になっている。和室にはコタツが置かれ、談話の場となっている。換気や臭いには十分気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長いすを置くことで思い思いの場所で過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真などの掲示は行っているが、居心地の良い空間とはなっていない	利用者が自宅で使い馴染んだ家具や大事な物を持参して頂き、安定した生活の場の提供に心掛けている。居室掃除や衣類の整理は、居室担当職員が、利用者と一緒にしている。転倒防止に、家具の配置や引き戸の開閉幅を調整するなど工夫されており、センサーマットを使用している方もある。利用者の安全を第一に希望に沿った居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒が無いようにドアの開閉の幅が個人の筋力にあわせるなどの配慮を行っている。		